はれやか

第19号
令和元年11月発行

岩藤医療保健福祉グループ

岩藤医療保険福祉グループ
医療法人　知誠会
社会福祉法人　赤磐中央福祉会
理事長　岩藤　知義

朝夕の冷え込みが一段と強くなりました。昨今は四季の変化が急激になったように感じます。インフルエンザの流行も今年は例年より2か月くらい早まっています。全て異常気象の一言で片づけることはできないでしょうが、昨年の西日本豪雨の傷がまだ癒えぬ間に、今年も台風19号により大きな被害となりました。関東地方の相次ぐ河川の氾濫を見るとき、自然災害への驚異が収まりません。

パリ協定は実行されず、地球温暖化に対する対応は何もないと、スウェーデンの16歳グレタ・トゥンベリさんは温暖化危機を涙で訴えて大反響を得ました。今後は同様の災害は起こるものとして対応すべきでしょう。ハザードマップどおりに浸水するものと思えということです。愛媛県大洲市の医師は「水害は毎年繰り返されるので、浸水後は掃除をするだけで良いようにしておけば何ら怖がることはない」と言っています。自然を制御することはできません。

竹村公太郎氏は常々「エネルギーの自給率の低い国は必ず亡びる。日本は6％しかないが世界に誇れる水力がある。既存のダムを最大限に活用するため、堤防を5mかさ上げして全てのダムで水力発電をすべし。」と訴えています。

地元平島地区に目を移せば、昨年の砂川決壊から一年経ち、決壊箇所の応急修理が終わり一段落した所に、降ってわいたように現れたスマイルシンデレラ渋野日向子プロの快挙です。腕は勿論のこと笑顔とマナーが素晴らしく、発言を聞いても応援の思いが掻き立てられます。町おこしの起爆剤としても大いに応援したいものです。

喜ばしいことも多く、リチウム電池の開発による吉野彰氏のノーベル化学賞受賞や、天皇陛下即位礼に続き、先日は盛大な祝賀パレードが行われたりと、その様子は国内外に大きく報道されています。

さて医療においては、入院ベッド削減の前段階として再編・統合が必要な公的病院が新聞報道されました。このような情報は突如として現れるものらしく、県は公表後に意見を聴取するというが、地域医療の現場の声を充分に施策に反映して欲しいところです。働き方改革で医師の勤務時間の削減を勧めるが、医師の仕事は職場における待機時間も含まれるので実労働時間の区別が難しい上に、医師の数が足りていません。大病院と地域のかかりつけ医の役割を明確化する必要があるのです。

オリンピックまであと8か月、受動喫煙を防止する飲食店内での禁煙対策が、国際レベルまでに速やかに整えられるよう願っています。がんの早期発見に「アミノインデックス」という新しい検査法が、今年の日本人間ドック学会で発表され実用化となりました。一回の採血で13種類のがんのリスクが判るというものですが、保険適応でないため費用がかかります。しかし、早期発見には有効な手段と成り得ると思います。

何はともあれ地域医療を死守するために、当院は有床診療所の良さをアピールして、介護施設連携で急性期病院と在宅医療の橋渡しに努める所存です。